

私有地をゲートボール場に

♡♡十市の村田晃さん♡♡

お年寄りが憩える場所を——と、昨年八月、十市に住む村田晃さんは、畑にしていた私有地に土を入れてゲートボール場に改良。今は地域のお年寄りが楽しく使用しています。



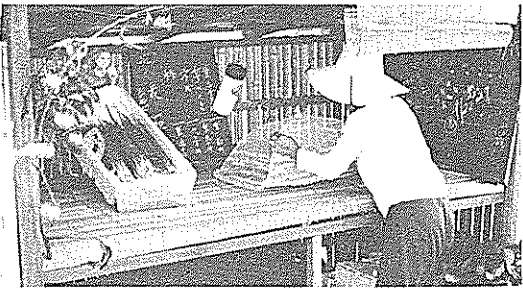
村田さん夫婦

ボール専用の場所がなく、十市小学校の校庭を使用していましたが、子供たちの遊び場でもあり、また冬は山の陰であるので、とても寒くなります。ある日、ゲートボールをしていたおばあちゃんが倒れたのを知った村田さんは、「買ったばかりの日当たりの良い畑を、ゲートボール場にしてお年寄りに使用してもらおうと考えました。そして早速、土入れなどの費用のために寄付を集め、昨年八月にはりっぱに整備されたゲートボール場が完成。周りには花壇も作り、奥さんの見佐子さんが毎日手入れをしている菊は、もうすぐ美しい花を咲かせそうです。また、お年寄りが孫を連れ立って来れるようにと、遊具も備えられていて、本当に心の行き届いたゲートボール場です。

村田さん夫婦の夢は、このゲートボール場の隣りに、お年寄りが集える「憩いの家」を建てることだそうです。そして、その資金集めに、先月から地元的生活改善グループの方の協力を得て、良心市も始めました。



▲花壇や遊具もそろった、りっぱなゲートボール場



▶「憩いの家」の資金にと始められた良心市

お年寄りと園児が楽しく

(大湊保育所)

敬老の日を前に九月十四日、大湊保育所で「敬老参観日」が開かれました。集まったおじいちゃん、おばあちゃんは約七十人。園児の家族だけでなく、地元の高齢クラブの方も参加しました。

まず、お年寄りが腕前を披露。おじいちゃんは、昔懐かしい竹とんぼやわら草履作り、ゲートボールを指導。おばあちゃんは、おじやみとぞうきんを作り園にプレゼント。魔法の手のような、お年寄りの器用な手さばきに、園児たちは見入っていました。

「昔は、学校へ手作りの草履は売っていたものだ」と言うおじいちゃんが、楽しそうになわを踏み、かわいい子供草履が出来上がる、と思わず「わあ、すごい」と



楽しい時を過ごすお年寄り

集える「憩いの家」を建てることだそうです。そして、その資金集めに、先月から地元的生活改善グループの方の協力を得て、良心市も始めました。

子供たちの歓声が上がりました。ホールに集まり、今度は園児が「百まで生きたらいいなあ——」と歌をプレゼントし、お年寄りは園児のかわいい姿にっこり。このほか劇や手遊びなど、みんな童心に帰って楽しんでいました。

■もんだい・九月八日夜、〇〇小グラウンドで、夜間照明設備の点灯式が行われました。

■あて先・〒783 南園市大浦甲三〇一 南園市役所内広報委員会親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所氏名、年齢、職業を書いてください。

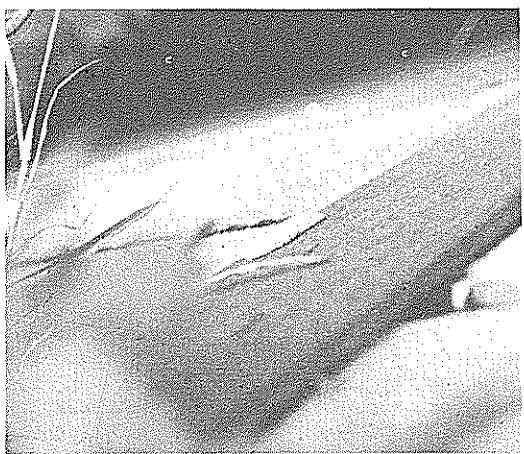
■賞品・正解者の中から、抽選で五人に図書券を進呈。

第153回正解者発表(敬称略)
(応募総数46通)

■答え・(60)

■当選者五人
山本広子(西山)
井上孝子(稲生)
窪川成生(後免町)
松浦慎一(里改田)
上元節子(大浦)

ジャンボタニシ…後川で繁殖



後川で見つけたジャンボタニシの卵

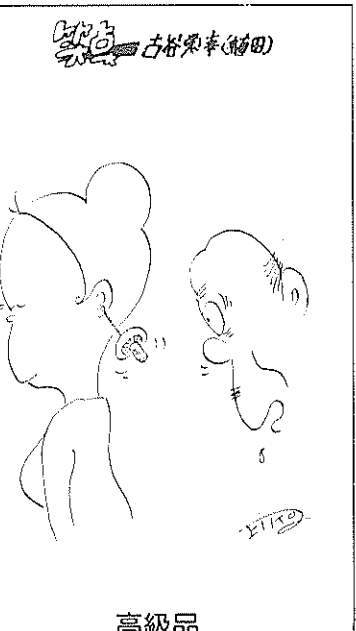
河川に流れないように注意しましょう!

昨年から市内でも繁殖されるようになったジャンボタニシ。その味は、アワビとサザエの間とも言われなかなか好評で、広く県下にも繁殖されていますが、大部分は市内で飼われています。九月九日には、県下単位の生産組合も誕生し、今後飼育や販売について調査研究をしていく計画です。

ジャンボタニシは、熱帯産の淡水性巻貝で、海水では生息できません。最適生活水温は二五〜二十七度と高く、繁殖力は旺盛。ウキクサなどのほか、野菜や果物の皮なども水に入れると食べるそうです。

め、台湾では、河川に流れ出たジャンボタニシの一種が異常繁殖し、水稲への被害が報告されています。

市内では今年七月ごろ、浜改田の後川でこの貝の繁殖が確認され、地元からは「農作物に被害を与えるのではないかと」、心配の声が上がりました。



南国歌壇

遊園遊び来たのか一と木の

ねち花咲きぬ夏草の庭

下野田 徳久まきみ

敬老日の今宵受話器を伝いくる

孫らの声の弾みてひびく

西島 高橋佐代

慰安会なれど舞台の閑近して

楮古音ふるふ秋霖の夜

十市 山本憲彰

機械化のすすみて中年農婦らは

少女の如く手のやわらかし

西島 岡林きよ

庭のすみズ虫みつつけし息子なり

姉弟なかくカゴに入れ

下野田 北村優美子

初秋のまひる間を降るひより雨

光りて降れる空はひろしも

大浦 中田靈秀

南国柳壇

運動会ピリの生徒が人気あり

前浜 大原正明

雨となり天上の恋星祭り

立田 北村幸江

核の字は世界平和の辞書になし

十市 沢村鶴一

不戦勝星を拾った様に云い

植田 吉本其梅

南国俳壇

草の葉の露光り増し月上る

盆すみて僧の衣の干してあり

月仰ぐ人の顔まで見ゆるかな

新米を握りしめたる農夫の顔

ふるさとの枕を曼珠沙華とする

窓を打つ秋雨 パンがきつね色

旅立ちや子を遠ざける秋の虹

粗食して影絵の中のような秋

夏草は女の掌より匂いだす

粟田啓生(梵鐘句会)

養父佳代()

林 光江()

田中隆夫(市民句会)

和泉修司()

山崎勝子()

岡田昌子(花柳俳句会)

楠瀬秀子()

岡田寿子()